

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

政策局の使命は、市の新ビジョン実現に向けた「全庁をつなぐ司令塔」及び「現場に寄り添う伴走者」として、データとエビデンスに基づく政策立案と着実な執行を牽引することである。

特に、環境・経済・社会・地域の好循環を生み出す「世界をリードするサステナブルシティ」の構築を推進するとともに、単なる交流にとどまらず「実利」に繋げる国際戦略を展開し、投資、ビジネス、人材を呼び込む。

あわせて、地域企業や市民を巻き込んだ市全体のDXを強力に推進することで、市民・職員双方にとって最適な行政への転換を図る。

2 基本情報

(1) 令和8年度局全体当初予算額

一般会計148億円(うち一般財源114億円)、特別会計なし

(2) 組織(部名) (R8.4.1付)

総務部、政策部、グローバル挑戦部、WomanWill推進室、DX・AI戦略室、東京事務所

(3) 所管の政策連携団体

アジア成長研究所、北九州国際交流協会、アジア女性交流・研究フォーラム

(4) 所管の主な公共施設(運営方法:直営、指定管理、その他)

指定管理

北九州市立男女共同参画センター・ムーブ

3 令和7年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り(総評)

各課題において、関係各所と密な連携と協議に取り組んだ結果、一定の成果が得られた。特にDX推進では、生成AIの活用や窓口オンライン化で業務効率を大幅に向上させた。また、令和7年度予算の重点テーマに注力し、サステナブルシティの新たな都市像の策定や女性政策の推進につなげた。引き続き、組織横断的に調整・連携を図り、市全体の持続的な発展を牽引してまいりたい。

○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果

- ・(DX推進)生成AI利用率が8→37%に向上。窓口予約サービスの全区展開、対象手続きのオンライン化100%を達成。
- ・(計画)サステナブルシティの新たな都市像を策定。令和8年1月に世界的な研究者と共同発表し、市のプレゼンスを向上。
- ・(計画)取り組みで得られた女性の声を可視化して、市民・企業・地域等市全体で共有し、新たな発見、共感を醸成するイベントを実施。
- ・(政策連携団体)役割を再定義し、協定締結。

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容(理由)・令和8年度に向けた考え

- ・(国際)海外戦略の策定は、令和8年1月に示された国の外国人政策の新たな方向性や具体的な対応策を反映させる必要があるため、令和7年度中の策定は見送った。

課題領域 B

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
国際	海外でのプレゼンス向上及び外国人も住みやすいまちに向けた国際関連施策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・国際戦略の策定 ・市内の情報集約・活用・必要に応じた助言 ・海外に向けた情報発信の強化 ・外国人も住みやすいまちに向けた取り組み
DX	DX・AIによる新しい窓口へのアップデート	<ul style="list-style-type: none"> ・スマらく区役所サービスプロジェクトの実施

課題領域 C

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
政策	世界をリードするサステナブルシティの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・「Next Horizon Sustainable City」の具現化に向けた市内の共創体制構築 ・具現化する3つのプロジェクトの推進

【凡例】

○課題領域

- A ・行政サービス現場改善にかかる課題
- B ・課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの
 - ・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
- C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

4 課題

課題B (1) 海外でのプレゼンス向上及び外国人も住みやすいまちに向けた国際関連施策の実施【政策分野：国際】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:高】

②課題の内容

北九州市はこれまで、アジアを中心に環境・SDGsの取り組みに加え、高齢化という世界的な課題への先進的な対応が注目を集めるなど、経済・文化交流を進め一定のプレゼンスを獲得してきた。しかしながら、今後、「グローバル挑戦都市」としてさらに成長していくためには、いくつかの課題がある。

(ア)北九州市のポテンシャルを踏まえれば、世界におけるプレゼンス向上の余地はまだあり、海外の活力を地域に取り込めていない。

(イ)地域住民、外国人の間の相互理解が不十分なため、地域で様々な課題が見られる。

③課題の背景や現状

(ア)各部署が実施している国際関係業務について、庁内での情報共有や連携が不足しており、市全体の統一感や相乗効果が生まれていない。また、海外に向けた情報発信も不十分である。

(イ)－1 増加する外国人市民のニーズや実態把握が十分に出来ていない。

(イ)－2 日本人と外国人の相互理解を図るための接点や機会が少ない。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

(ア)国際的な都市のプレゼンス向上を図り、市民のシビックプライドの醸成とともに、海外からの活力を取り込むことで、地域経済の活性化と持続可能な都市の発展を目指す。

(イ)日本人と外国人が安心して共に暮らせる環境を整備するとともに、相互理解を深めることで、外国人も住みやすいまちを目指す。

⑤令和8年度の実行内容(四半期間隔)

(1)国際戦略の策定

他都市における先進事例の情報収集や関係機関などへのヒアリングを通じて、現状や課題を把握するとともに、アジア成長研究所など有識者の知見を活用した調査・分析を行い、市の国際戦略を策定する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・ヒアリング調査・分析	→	・国際戦略(骨子案)の策定	・国際戦略の策定

(2)庁内の情報集約・活用・必要に応じた助言

グローバル挑戦部が庁内の情報の集約・共有を行い、各部署が国際関係施策を実施する際、収集した情報の活用や必要に応じた適切な助言等を行う。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・個別ヒアリング ●全庁照会 (国際関連施策)		●全庁照会 (国際関連施策)	→
・関係部署への国際情報などの提供、助言			→
・新たな情報集約方法の検討			→各局通知・実施

4 課題

課題B (1) 海外でのプレゼンス向上及び外国人も住みやすいまちに向けた国際関連施策の実施【政策分野：国際】

(3)海外に向けた情報発信の強化 WEB、海外からの来訪者及び市長のトップセールス等を活用し北九州市の強みを発信する。			
第1四半期(4～6月)	第2四半期(7～9月)	第3四半期(10～12月)	第4四半期(1～3月)
・海外向け広報 (SNSほか)			→
・新たな広報手段の検討			→
・海外からの来訪者受入・ 市長のトップセールス			→

(4)外国人も住みやすいまちに向けた取り組み			
第1四半期(4～6月)	第2四半期(7～9月)	第3四半期(10～12月)	第4四半期(1～3月)
・ニーズの把握・分析			→ 環境整備の充実 ための施策を検討
・相互理解の促進に向け た事業実施			→

課題C (1) 世界をリードするサステナブルシティの実現【政策分野：政策】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト：高】【緊急度：高】

②課題の内容

北九州市は、公害問題を市民・行政・企業が一体となって克服した歴史を持ち、その経験を生かして、環境先進都市として国内外から高い評価を受けてきた。

こうした経験や実績は現在も受け継がれているものの、世界に対するさらなる発信や、市民が日常生活の中でサステナブルを感じられる機会の創出が十分にできていない。

環境と経済が両立した「サステナブル都市」のプレゼンスをより一層高め、「まちの成長と市民の幸福の好循環」を実現する「世界をリードするサステナブルシティ」を目指すため、令和7年度は、市民・行政・企業が一体となって取り組む方向性を示す戦略的アプローチ「Next Horizon Sustainable City(以下、NHSC)」を策定した。

今後は、この都市像の具現化に向けて、様々な主体が自分事として取り組むよう、NHSCについて浸透させていく必要がある。

③課題の背景や現状

戦略的なアプローチNHSCを、令和8年1月に策定したばかりで、各主体(庁内、企業、市民など)に浸透できていない。

まずは庁内各局が、NHSCを自分事として捉え、具体的な施策へと具現化するまでには至っていないため、全庁的なNHSCの普及促進が急務となっている。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

「世界をリードするサステナブルシティ」を目指す戦略的アプローチの策定・実行を通じて、世界への発信力を強化し、環境と経済が両立した「サステナブル都市」のプレゼンスを高めることで、国内外からの投資を呼び込む。また、市民が日常生活の中で「サステナブル」を実感する機会を創出することで、意識・行動の変容を生み出す。

これにより、市民の幸福度を高めるとともに、世界をリードするサステナブルシティとして世界との繋がりを強化し、「まちの成長と市民の幸福の好循環」を創出する。

⑤令和8年度の実行内容(四半期間隔)

(1)「Next Horizon Sustainable City」の具現化に向けた庁内の共創体制構築

NHSCを各主体(庁内、企業、市民など)に浸透させ、各主体が自分事として参画する共創体制を構築するために、まずは庁内各局が、NHSCを自分事とし、各施策にNHSCの視点を取り入れる仕組みを構築する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体の巻き込み 国内外への発信 			→
<ul style="list-style-type: none"> 各局へNHSC説明 各局事業へのNHSC概念落とし込み(6月頃) 	<ul style="list-style-type: none"> 各局事業とNHSCを結び付ける仕組みの構築(予算要求など。7-8月頃) 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けた庁内の合意形成 NHSC実現に向けた次年度取り組みの検討(予算化含め) 	→

4 課題

課題C (1) 世界をリードするサステナブルシティの実現【政策分野：政策】

(2) 具現化する3つのプロジェクトの推進

今後は、「Next Horizon Sustainable City」で掲げた4つの概念を具現化するため、3つのプロジェクト、①Retalabo(リタラボ 産官学民連携の共創機関)、②Destination Project(目的地プロジェクト)、③Matsuri Project(まつりプロジェクト)を推進する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
【3プロジェクト共通】 ・協力事業者選定 (公募型プロポーザル など) ・国際情勢等を踏まえ た現状把握およびリ サーチ ・多様な主体の巻き込み	・推進体制の構築		・次年度に向けた検討
【①リタラボ】 ・既存のSDGs施策統 合の検討	・ブランドコンセプトの 開発・設計・ストーリー 化	・次年度に向けた共創 拠点の設計	
【②目的地】 ・GDS-I*申請ほか	・GDS-I 結果発表 ・運営委員会の実施	・目的地プロジェクト FSツアー実施 ・GDS-Iの改善に向け た検討会	・次年度に向けた GDS-Iのデータ整理
【③まつり】 ・課題プロジェクト(既 存・新規)を具体化 ・取り組みの見える化、 情報発信	・多様な主体の巻き込み ・第3期に向けた大規模 プロジェクトの準備	・市民ワークショップの 実施 ・まつりプロジェクトを 象徴する大規模イベン トの実施	

*GDS-I:観光都市およびMICE開催地としての「サステナビリティ」を測定・評価・比較する世界的なベンチマーク